

製品名: リン酸化アルテミス (Ser516) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab00839**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% アジ化ナトリウムを含む PBS 液 (pH 7.3)。
精製	アフィニティークロマトグラフィー

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	Calculated MW: 78 kDa; Observed MW: 78 kDa

抗原情報

遺伝子名	DCLRE1C
別名	SCIDA; SNM1C; A-SCID; RS-SCID; DCLREC1C
遺伝子 ID	64421
SwissProt ID	Q96SD1
免疫原	抗血清は、Ser516 のリン酸化部位周辺のヒトアルテミス由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 482-531

背景

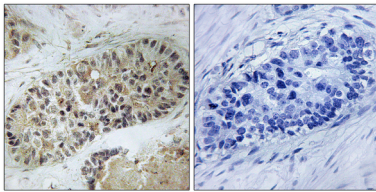
V(D)J 組換えに必須。V(D)J 組換えは、免疫グロブリンおよび T 細胞受容体タンパク質の抗原結合ドメインをコードするエクソンが、

個々の V、(D)、および J 遺伝子分節から組み立てられるプロセスである。V(D)J 組換えは、リンパ球特異的 RAG エンドヌクレアーゼ複合体によって開始され、部位特異的な DNA 二本鎖切断 (DSB) を生成する。これらの DSB は、ヘアピンで封止されたコーディング末端とリン酸化平滑末端の 2 種類の DNA 末端構造を示す。これらの末端は、非相同末端結合 (NHEJ) 経路によって独立して修復され、それぞれコーディング末端とシグナル末端を形成する。このタンパク質は、単独では一本鎖特異的な 5'-3'エキソヌクレアーゼ活性を示すが、PRKDC との複合体を形成すると、5'および 3'ヘアピンとオーバーハングに対してエンドヌクレアーゼ活性を獲得する。後者の活性は、コーディング末端の形成前に閉じたヘアピンを分解するために特に必要である。また、電離放射線によって誘発された複雑な DSB の修復にも必要になる可能性があり、NHEJ による再連結の前にかかなりの末端処理が必要になります。

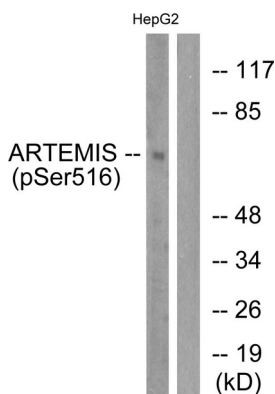
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

画像データ



リン酸化アルテミス (Ser516) 抗体を使用した、パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学分析。抗原賦活化には、高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。右側はブロッキングペプチドを含むサンプルです。



EGF 処理した HepG2 細胞における Phospho-Artemis (Ser516) のウエスタンブロット分析 (Phospho-Artemis (Ser516) 抗体を使用)。右側のレーンは Phospho-ペプチドでブロックされています。